日本語版への序　玉野井麻利子　9

序　章　満洲―交錯する歴史　玉野井麻利子　23
満洲の歴史の概観　27
共通テーマ　37

第一章　心のなかの満洲　ラナ・ミター　57
【一九三〇―三七年の中国東北部をめぐる出版とプロパガンダ】
杜重遠（ドゥ・ツォンヤン）――筆一本で出世した男　60
杜の読者　63
杜の人物像――「三五〇〇万人を代表する」　68
「親善などあり得るのか？」　80
抵抗の人物像――馬占山　85
結　語　94

第二章　都市なき都市計画　デービッド・タッカー　102
【ユートピア満洲国の秩序と混沌】
一九三三年農業移民計画　105
計画者たち　106

ユートピアンが夢見た白紙　110
世界の都市計画における本農業移民計画の位置づけ　132
占領と白紙　135

第三章　皇女、反逆者、兵士、スパイ――ダン・シャオ　145
【愛新覚羅顕玕と満洲族のアイデンティティのジレンマ】
「紅炉上一点の雪の如し」――顕玕小伝　150
日本とアメリカでの顕玕像　154
満洲のマタ・ハリもしくは中国人の裏切り者――裁判にかけられた金璧輝　162
旗人か満洲族系中国系日本人か　173
中国で語り継がれる顕玕　179
結　語　183

第四章　日満親善を追い求めて――マイケル・バスケット　200
善意の場に非ず――満映帝国を築いた男・甘粕正彦　205
李香蘭と『支那の夜』――試練の恋としての親善　213
新しき土を包含する――日独親善と満洲　224
親善有限会社――満洲への郷愁を扱ったビジネス　231
結　語　236

第五章　支配された植民者たち――トーマス・ラウーゼン
【満洲のポーランド人】　248
「植民者」としての満洲の住民　252
極東のポーランド人、グロホフスキ　254
カトリシズムへの投資　258
ロシア革命後の極東のポーランド人　262
結　語――ポーランドと満洲国　266

第六章　植民者を模倣する人々――ソクジョン・ハン
【満洲国から韓国への統制国家の遺産】　273
スポンサー付きの儒教　277
慰霊の儀式　279
建国体操　282
反共大会など　284
一九七〇年代の継承者　289
チャンスの場としての満洲国　292
結　語　294

第七章　汎アジア主義【森崎湊から三島由紀夫まで】　玉野井麻利子

森崎湊の日誌　303
日系と満系　307
日本人としての優越感　309
湊の優越感の崩壊　312
満系＝中国人　317
湊、建国大学を辞す　321
結　語　327

監訳を終えて　335
人名索引　342
地名索引　347
著者紹介　350／訳者紹介　349